

原作 三浦綾子

山田火砂子 監督作品

劇映画

# 母

小林多喜二の母の物語



寺島しのぶ

塩谷瞬  
趣里  
山口馬木也  
徳光 和夫  
赤塚 真人  
佐野 史郎  
渡辺 いづけ

松本若菜  
真行寺君枝  
磯村みどり  
浅利香津代  
神田さち子  
加藤純平  
水石亜飛夢  
月船さらら  
草薙仁  
上野神楽  
福原圭一  
露のききょう  
進藤龍也  
安田陽子  
崎野亜紀子  
秋元辰美  
平尾仁  
小磯聡一郎  
松野木拓人  
井上智之  
関戸将志  
中泉英雄

わだしは小説を書くことが、  
あんなにおつかないことだとは  
思ってもみなかった。  
あの多喜二が  
小説書いて殺されるなんて

製作 | 株式会社 現代ぷろだくしょん

山田火砂子

プロデューサー | 上野有  
ラインプロデューサー | 櫻井陽一  
原作 | 三浦綾子「母」(角川文庫)

脚本 | 重森孝子  
坂田俊子  
山田火砂子

撮影 | 長田勇市 (JSC)  
録音 | 沼田和夫  
助監督 | 増田天平

美術 | 都留啓亮  
装飾 | 加藤健一  
編集 | CG 岩谷和行

衣裳 | 村島恵子  
ヘアメイク | 小堺なな

協力 | 公益財団法人三浦綾子記念文化財団 / 三浦綾子読書会 / 東京母親大会連  
絡会 / 北海道和寒町 / 秋田県大館市 / YMCA / YWCA / 小樽シオン教会他  
推薦 | 治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟中央本部

秋田県釈迦内村、小作農と小さなそば屋で生計を立てる貧しい家の娘にセキは生まれた。高額な地代のため、貧しい農家の娘たちは身売りするより仕方がない。セキの友達も売られていった。学校へ行きたくても、男の行くところだと親は相手にしない。

15歳で小林の家に嫁いだセキと夫末松の次男が、「蟹工船」等のプロレタリア小説を書き残し、昭和8年2月20日に虐殺された作家、小林多喜二である。

セキは優しい母親であった。自分は字もろくに書けなかったが、海のように広い心で子供たちを愛し育てていく。多喜二は叔父の世話で、小樽高商（現小樽商科大学）を卒業し銀行に勤めるまでになる。当時の銀行は高給で一生涯楽に暮らせる程であった。しかし多喜二は貧しい人の味方となって小説を書くという信念を貫き通す。「武器を作るお金で皆に白い米のご飯を！」と命掛けて反戦を訴えていく。

セキは息子の多喜二を信じ続けた。「多喜二のすること信用しねで、誰のすること信用するって」しかし危険分子とみなされた多喜二は遂に国家権力の手によって殺されてしまう。

「多喜二！もう一度立ってみせねか！皆のためもう一度立って見せねか！」

多喜二の死を受け入れられず苦しむセキ。長女チマの誘いで教会を訪れたセキは、イエス・キリストの死の話聞き、何も悪い事をしていないのに殺されたイエスと多喜二の姿を重ね合わせ、思いを巡らす…



### 小説『母』を書いて《抜粋》 三浦綾子

母セキは、多喜二が少年の頃から、小さな店を営んでいた。多喜二きょうだいは、母親にきょう一日の出来事を告げたくて、われ先にと話すので、時に客の訪（おと）なう声を聞きもらした。そして、パンや餅が盗まれることがあった。そんなときセキは、「なんぼ腹が空いていたんだべか」

と、心からなる同情の言葉を発した。この母セキの、貧しい者への愛が、多喜二をして、自分だけの生活に安住させなかったのであろう。そして遂には、命まで失ったのであった。

小説『母』を書き起こすにあたって、私は何人かの若い人に「小林多喜二を知っていますか」と尋ねてみた。残念ながらほとんどの者が知らなかった。多喜二は忘れられてはならぬ人である。その家族も、忘れてはならぬ人である。



2017 **5月14日** (日) 室蘭市民会館

室蘭市輪西町2丁目5-1 / TEL.0143-44-1113

①回目 11:00 ~ 12:52 (開場 10:30) ②回目 14:30 ~ 16:22 (開場 14:00)

料金 / 一般・シニア前売 1000円 (当日 1200円) 学生 (小・中・高・大) 前売 500円 (当日 700円)  
前売券扱 / ぐりんぴーす・ぶらつとてついち・工大生協 "ほしのおくりものぎんやレコード"

登別母子会・洞口書店 (伊達)

主催 /

**室蘭シネマクラブ**

TEL.0143-43-2895

FAX.0143-43-2783

後援 / 室蘭市教育委員会・北海道新聞室蘭支社・室蘭民報社

※全国共通の制作協力券での入場可